

第 32 回日本意識障害学会

7月27日(土) A会場(8階805)

教育講演 2

8:50 ~ 9:50

座長：前島伸一郎(国立長寿医療研究センター 長寿医療研修センター)

EL2 急性期意識障害の鑑別診断と最新の治療

ながやま まさお
永山 正雄(国際医療福祉大学大学院医学研究科脳神経内科学 国際医療福祉大学成田病院)

特別講演 1

9:55 ~ 10:55

座長：大沢 愛子(国立長寿医療研究センター リハビリテーション科)

SL1 Brain Health と栄養

あらい ひでのり
荒井 秀典(国立長寿医療研究センター)

シンポジウム 5 看護管理

11:00 ~ 12:30

座長：日高紀久江(東邦大学 健康科学部)
野々川陽子(独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター附属金沢看護学校)

S5-1 基調講演：遷延性意識障害患者の看護についていま改めて思うこと

ひだか きくえ
日高紀久江(東邦大学 健康科学部)

S5-2 在宅における意識障害患者の現状と課題

なかがわ なおみ
中川奈緒美(一般社団法人あおぞら 訪問看護ステーション虹)

S5-3 エコーを活用したアセスメントによる排便管理

まつもと まさる
松本 勝(石川県立看護大学)

S5-4 退院後の生活を見据えた回復期の関わりを通じた看護管理

にいみ ちか
新美 千佳(国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター)

特別講演 2

13:40 ~ 14:40

座長：加賀谷 齊（国立長寿医療研究センター リハビリテーション科部）

SL2 摂食嚥下障害について

才藤 栄一（藤田医科大学教授 / 藤田学園最高顧問）

シンポジウム 6 ナスバの活動について

15:00 ~ 17:00

座長：森田 功（藤田医科大学 医学部 脳神経外科）
指定発言：中村晃一郎（ナスバ（独立行政法人 自動車事故対策機構））
中村 博彦（社会医療法人医仁会 中村記念病院 脳神経外科）

S6-1 交通外傷による重症頭部外傷後 遷延性意識障害患者の意識改善を目指した治療施設としての NASVA（自動車事故対策機構）東北療護センターの現状

関 慎太郎（広南病院東北療護センター）

S6-2 千葉療護センターの過去・現在・未来

小林 繁樹（自動車事故対策機構 千葉療護センター）

S6-3 自動車事故対策機構 中部療護センターの取り組みについて

矢野 大仁（中部脳リハビリテーション病院・中部療護センター脳神経外科）

S6-4 自動車事故対策機構・岡山療護センターの現況

本田 千穂（自動車事故対策機構・岡山療護センター）

閉会挨拶

17:00 ~

近藤 和泉（国立長寿医療研究センター）

第 32 回日本意識障害学会

7月27日(土) B会場(8階 802+803)

教育講演 3

8:50 ~ 9:50

座長：竹内 栄一 (医療法人清水会 京都リハビリテーション病院)

EL3 リハビリテーションの観点から考える在宅ケアと支援機器の有用性

おおたか えり
大高 恵莉 (国立研究開発法人国立長寿医療研究センター)

教育講演 4

11:00 ~ 12:00

座長：森田 功 (藤田医科大学 医学部 脳神経外科)

EL4 リビングラボを用いた健康長寿支援ロボットの開発

かとう けんじ
加藤 健治 (国立長寿医療研究センター)

一般口演 8 支援デバイス

12:00 ~ 12:40

座長：塚原 淳 (国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター)
森田 功 (藤田医科大学 医学部 脳神経外科)

○8-1 入院後2年経過する遷延性意識障害患者の右手の残存機能を活かし、フィンガースイッチ付き玩具を使ってコミュニケーション手段に繋がった一例

いきみね わかな
生峰 若菜 (独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療養センター 看護部)

○8-2 自動車事故による閉じ込め症候群患者へスイッチを用いた代替コミュニケーション訓練を導入した一例

いしづか りょういち
石塚 諒一 (自動車事故対策機構 千葉療養センター 診療部 リハビリテーション科)

○8-3 運動機能が麻痺しているため意識は鮮明であるが意志表示ができず、植物状態に見える患者との意思交換 — 患者の意志表示のために使える顎筋肉の硬直化を検出するデバイスの開発

おくた あつゆき
奥田 篤行 (全国遷延性意識障害者・家族の会)

○8-4 手指デバイス iWakka に関する潜在的ニーズのアンケート調査 — 看護師のオリジナルアンケート結果からの考察 —

いのくちり えこ
猪口里永子 (国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター)

- 8-5 手指デバイス iWakka に関するユーザビリティ調査
 - 看護師のシステムユーザビリティスケール (SUS) および
 User Experience Questionnaire(UEQ) アンケート結果からの考察 -
 猪口里永子 (国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター)

一般口演 9 画像診断・脳刺激

14:40 ~ 15:20

座長：畠山 哲宗 (香川大学 脳神経外科)
 大沢 愛子 (国立長寿医療研究センター リハビリテーション科)

- 9-1 脳外傷後の経過における THK5351-PET の有用性について
 畠山 哲宗 (香川大学 脳神経外科)
- 9-2 拡散テンソル画像所見に基づき tDCS 電極貼付部位を変更し意識障害に改善がみられた遷延性意識障害例
 阿部 浩明 (福島県立医科大学保健科学部)
- 9-3 脳損傷後の意識障害に対する経頭蓋直流電気刺激の可能性について
 高橋 千晶 (金沢医科大学リハビリテーション医学科)
- 9-4 経頭蓋直流電気刺激後に意識障害の改善を認めた遷延性意識障害例
 大鹿糠 徹 (広南病院東北療護センター リハビリテーション部)
- 9-5 慢性期重症頭部外傷症例に対する自家骨髄 MSC 静脈投与
 岡 真一 (札幌医科大学医学部神経再生医療科)

一般口演 10 家族支援

15:30 ~ 16:10

座長：戸國真佐子 (立命館大学大学院 社会学研究科)
 瀬瀬 伸子 (国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 看護部)

- 10-1 成人期における遷延性意識障害・重症心身障害児 (者) の系統的地域連携支援対策の構築
 戸國真佐子 (立命館大学大学院社会学研究科)
- 10-2 入院中の子供を持つ親の気持ちに寄り添う看護
 ~面会制限のある中で、遠方の病院に子供を預ける母親との関わりを通して~
 森西めぐみ (独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター看護部)

○10-3 突然の意識障害を呈する患者の看取りへの関わり

^{やました}山下 ^{しゅう}修 (藤田医科大学病院高度救命救急センター NCU 病棟)

○10-4 遷延性意識障がい者とともにある家族の日常生活における思い
ー A 家族会へのアンケート調査からー

^{たかはし}高橋 ^{ともこ}智子 (岐阜県立看護大学)

○10-5 介護期間の長期化した遷延性意識障害者・高次脳機能障害者の家族と家族会
の関係について

^{おおにし}大西 ^{ひさお}久男 (大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究所)

一般口演 11 診断・予後

16:20 ~ 17:00

座長：奥寺 敬 (国立大学法人 富山大学名誉教授・中部国際医療センター救急部門)
永山 正雄 (国際医療福祉大学大学院医学研究科 国際医療福祉大学成田病院 脳神経内科学)

○11-1 遷延性意識障害の治療に関するエビデンスの現状と課題

^{ながやま}永山 ^{まさお}正雄 (国際医療福祉大学成田病院 脳神経内科学 予防医学)

○11-2 遷延性意識障害の治療に関する高度のエビデンス

^{ほしやま}星山 ^{えいせい}栄成 (獨協医科大学 脳神経内科 救命救急センター・集中治療室)

○11-3 遷延性意識障害の聴覚誘発磁界検査にて
聴覚野活動が不明な例の脳活動における脳内結合性の観察

^{いけがめ}池亀 ^{ゆか}由香 (中部脳リハビリテーション病院・中部療護センター脳神経外科)

○11-4 遷延性意識障害患者の生命予後に関する調査と課題

^{よもぎた}蓬田 ^{えり}恵理 (一般財団法人広南会広南病院東北療護センター看護部)

○11-5 救急医療の現場における意識障害の判定がその後に与える影響

^{おくでら}奥寺 ^{ひろし}敬 (中部国際医療センター救急部門)

第 32 回日本意識障害学会
7月27日(土) C会場(8階801)

ハンズオンセミナー1 体位変換の基礎を知るためのハンズオン・セミナー 10:00～11:00

講師：近藤 和泉（国立長寿医療研究センター）

ハンズオンセミナー2 ISLS シンポジウム 14:00～17:00

講師：奥寺 敬（中部国際医療センター）